

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190400158
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホームみんなの家・川越寺尾
所在地	埼玉県川越市寺尾888-14
自己評価作成日	令和6年10月28日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和6年11月25日



【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の独自性が尊重され、プライバシーを保ち尊厳を維持する事。自由や好み、および主体的な決定が尊重される事。安心感と自信を持てるよう配慮し、安心と衛生が保たれた環境で生活できるよう支援しています。季節に合わせた行事を開催し四季を感じて頂けるように努めています。月1回職員手作りの昼食会を開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東武東上線福岡駅から徒歩13分の場所にある、住宅街に囲まれた2階建て2ユニットのグループホームである。「個人の独自性を尊重し、プライバシーと尊厳を保ちつつ、自由な決定が尊重されること、安心感と自信を持てる生活環境の提供」を方針として掲げ、ベテラン職員を中心にその方針に沿った支援が行われている。季節感を感じられる掲示物の作成や月1回の手作り昼食会、テラスを活用した外気浴など、外出機会が限られる中でも利用者が気分転換できる工夫がされている。看取り対応に関しては、重度化の指針を作成し、入居時に家族への丁寧な説明を行い、訪問医や看護師と連携して対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を定め、常に確認できる位置に掲示しています。	理念は玄関や事務室に掲示され、職員は常に目にすることができるようになっている。会議の中でも理念に基づいた振り返りを行い、在職年数の長い職員が多いため、理念に基づいたケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。 祭りの際にはお声かけ頂いています。	自治会には参加しており、お祭りなどの地域行事には声掛けを受け、参加可能な入居者が参加することもある。日常的には、散歩時に地域の人々と挨拶を交わすなどの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方への見学対応を随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催ですが感染症が発生してしまった際には書面を郵送しています。	今年度は感染症の影響を受け、運営推進会議は3回開催された。家族からは事前配布した文章で意見をいただいているが、対面での会議参加は得られていない。包括支援センター等には案内を出したが、参加者はなかった。	家族には文書での意見提出ではなく、実際に会議に参加してもらい、対面での意見交換の場となることを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告および苦情、相談の体制を取っています。	日常的にはメールでのやり取りがほとんどである。必要な際には報告や相談を通じて、協力体制が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会(年4回)、身体拘束適正化のための研修(年2回)を開催している。身体拘束を行わない取り組みを行っている。	年4回の委員会と研修が行われ、事例検討を通じて理解を深めている。職員全員によるレポート提出も実施され、ケアの振り返りの機会として活用されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会(年4回)、研修(年1回)を開催している。虐待の理解、職員間でお互いを意識することにより、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し職員会議にて情報の共有を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、解約手続きの際に適切に説明を行いご理解を頂いた上、署名、押印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時や電話でのご相談、ご意見、ご要望を受けられる体制を取っています。	面会時や電話で家族からの要望・意見を聞き、出された内容は申し送りノートに記録して情報を共有している。家族からの要望については、改善可能なことは速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し個々の相談や意見交換の機会を設けています。	月1回の職員会議では、ケア内容や方法について活発な意見が交わされている。会議に限らず、日々の申し送り時などでも意見交換が活発に行われ、ケア方法の改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施、資格取得の支援制度も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の充実化と近隣事業所での業務経験をっ実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は地域包括主催の地域交流会に参加していたが、現在は実施されていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の際、ご本人やご家族の意向やご家族の意向を確認検討し安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居後の様子を電話や毎月の家族通信にて報告しご安心頂けるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により十分にリサーチし、ニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事後の後片付けや洗濯物畳み等の家事を一緒に行って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等の協力を頂きながら共に支える環境作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問の際には、再来訪のお声掛けを行っています。	面会は可能で、家族や親戚の訪問、また在宅当時のケアマネジャーの訪問も行われている。職員はブログやその他の配信手段を通じて、日常の様子を家族に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1、2階合同で食事会を行ったり、体操や家事活動を通し関わりを持てるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お気軽にご連絡頂きますようお願い掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、ご本人とコミュニケーションを図り、お気持ちや意向を把握できるよう努めています。	会話ができる入居者が多く、日々の会話や関わりの中で希望や意向を把握している。会話が困難な入居者については、日々の様子や仕草などから意向を汲み取り、職員間で情報共有を行い把握している。食事に関する要望が出されることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人よりお話をお伺いし把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子の観察、職員間での申し送りによる情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の申し送りを行っています。	家族や入居者から記入いただいた「ご意向記入表」を基に、都度、要望や意見を伺っている。サービス担当者会議では職員の意見や「意向記入表」の内容を参考にし、状況に即した介護計画を作成している。利用者の状況に変化があった際には、適宜、計画を見直して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画のモニタリングを行い実践状況の確認と評価を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況の変化や入退院後の支援の内容の見直しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策を行いつつ気候をみながら散歩へ行ったりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2階の内科医、歯科医の居宅療養管理指導により健康管理に努めています。	月2回、内科医と歯科医の訪問があり、週1回歯科衛生士と看護師の訪問も実施されている。さらに、家族の希望により耳鼻科医の訪問も行われている。日常の薬管理は、ホームと契約している薬局が対応しており、医師とは24時間連絡体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回医療連携連携看護師が訪問。その際に情報を共有し助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の相談員や看護師により情報提供を受け、退院の相談を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、入居契約時に説明をしています。体調に大きな変化があった際には医師、看護師、ご家族と話し合いを行い対応しています。	重度化や終末期に関する指針が整備されており、入居契約時に利用者や家族に説明が行われている。重度化が進んだ場合には、医師や看護師、家族と相談しながら看取りの対応を行っている。職員は、自然なこととして受け入れ、対応にあたっている。今年度も2名の事例があり、適切な対応が実施された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。	年2回、入居者参加型の夜間想定訓練が実施されており、そのうち1回は消防署の立ち会いのもとで行われている。さらに、業務継続計画(BCP)の作成や備蓄品の準備も進められており、災害時に備えた対応体制が整えられている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の小窓に目隠しをしています。トイレや更衣時のドアは解放厳禁にしています。排泄に関し他者に聞こえないよう配慮しています。	法人からの対応に関する文書は回覧され、会議でもその内容が確認されている。職員一人ひとりが利用者の誇りやプライバシーを尊重し、適切な言葉かけを意識している。また、虐待防止委員会でも定期的に話し合いが行われ、職員全員の意識向上が図られている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	丁寧に傾聴しご本人のお気持ちに添えるよう支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを実践しお一人お一人のペースに合わせた生活が出来るよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の合わせた身だしなみが出来るよう支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かいものは温かく、冷たいものは冷たいまま召し上がって頂く、盛り付けにも工夫し美味しく召し上がって頂けるよう配慮しています。下膳、食器拭き等をお手伝いして頂いています。	日々の食事では新鮮な野菜を取り入れ、月1回の昼食会や誕生日には手作りのおやつを提供するなど、食事が楽しみになるよう工夫している。食器拭きなども入居者と一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の確認、記録を行っています。安全に召し上がって頂けるよう、食形態の個別対応も行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導、助言の下個別の口腔ケアを行っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるように努めています。失敗が少なくなるようお声掛けを行っています。	おむつの使用は極力避け、Dパンツなどを活用し、個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。日中はほとんどの入居者がトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、不足の際にはお声掛けを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やご希望に沿い入浴して頂けるよう努めています。	入浴日は固定せず、毎日2～3人が1対1でゆっくり入浴できるよう配慮している。リフト浴と普通浴を用意し、身体状態に応じた入浴を行っている。拒否がある場合はタイミングや担当者を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望を尊重して休息して頂いています。お疲れの様子が見られる際にはお声掛け誘導させて頂いています。室温、寝具の調整を行い安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療医、薬剤師の指示にて対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味やお好きな事、生活歴を参考に暮らしの中に楽しみが持てるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や庭での外気浴を実施しています。ご家族様とお出かけの際には準備のお手伝いをしています。	近隣への散歩やテラス・庭での外気浴を通じて、できる限り戸外に出て季節を感じ、気分転換を図っている。また、家族との外出時には食事や外出準備など、必要な支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者立替金システムによりご希望の物を購入頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接ご本人が電話をかけたり、職員が代理でお伝えしたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったレイアウトや掲示物の作成を一緒に行っています。一定の温度、湿度で心地よく過ごせるよう配慮しています。	テラスに面した広い開口部があり、共有部は明るく清潔な空間となっている。壁には笑顔の写真や季節を感じる飾り付けが施され、日中は多くの利用者が共用部で過ごしている。テラスには椅子やソファが置かれ、ゆっくりとくつろげるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの関係性を配慮し座席の位置関係には十分に配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机、椅子等の馴染みの深い品をお持ちになりお使い頂いています。写真やレクリエーションで作成した物等が飾られています。	ベッド、チェスト、ロッカーが備え付けられており、利用者は使い慣れた机や椅子、家族の写真や仏壇、壁に行事の写真などを飾ることで、心地よい空間を作り出している。職員が定期的に清掃を行っているが、できる方は自分で掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る所はご本人が行い、必要な部分のお手伝いをさせて頂いています。残存能力を維持しながら安全に生活して頂けるよう支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームみんなの家・川越寺尾

目標達成計画

作成日: 令和 6年 1月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4(3)	運営推進会議の参加者が少ない	ご家族様に参加して頂く	昼食会等のイベントに合わせ会議の日を設定する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。